

眠らない関空— めざすは強く・ やさしい空港

本年6月末に関西国際空港(関空)の社長に就任して以来、早いもので3カ月がたちました。

関空を取り巻く環境は、世界同時不況や新型インフルエンザの影響、また、国内外の空港との激しい競争などにより、非常に厳しい状況です。しかし、今後、グローバル経済がますます進むなかで、日本は世界に開かれた国として成長し、発展していく必要があります。グローバル化とは、皆さまよくご存じのとおり、人や物・お金が国境を越えてシームレスに動き回ることですから、空港事業というのは中長期的には成長産業ではないかと私は思います。そのような観点から考えると関西から世界への玄関口としての関空への期待、そして果たすべき役割は非常に大きなものがあると強く確信しております。

私は、関空には3つの大きな強みがあると思います。一つは、4,000m級の長距離滑走路を2本持ち、完全24時間運用が可能である日本で唯一の「グローバルスタンダードな空港」であることです。二つめは、中国をはじめとするアジアとの距離が、位置的にも歴史的にも近いことです。特に、経済成長の著しい中国とは、香港・マカオを含め19都市(2009年9月現在)と結ばれており、日本で最大の中国便ネットワークを形成しています。三つめは、関空が立地する大阪湾周辺は「パネルベイ」と呼ばれるように、プラズマテレビや液晶テレビ、リチウム電池などの大型工場の集積が進んでおり、そこで製造される先進的な商品ほど高付加価値であり、航空需要が期待できることです。また、京都にも有力なグローバル企業がたくさんあります。

しかしながら、関空には解決すべき大きな課題があることも事実です。関空は、伊丹空港の騒音問題を解決するために、泉州沖5kmの海上を埋め立てて造った空港です。この国土形成ともいべき事業にかかった費用は借入金により賄われ、現在に至っても1兆1,000億円にもなる巨額の有利子負債が残っています。これが、関



福島 伸一 氏

Shinichi Fukushima
関西国際空港社長

空の財務構造問題なのですが、これについては、空港は国のインフラとして国家戦略で考えるべく、平成22年度概算要求において、現在90億円の政府補給金を160億円に増額要求していただきました。関空の国際競争力強化の緊急性と重要性について、国も理解を示していただいたものと、ありがたく思っており、今後、その実現を強く期待したいと思います。

アジアのゲートウェイとしての関空の位置づけをさらに高めるとともに、この課題を早急に解決することにより、韓国・仁川空港をはじめ、香港や上海の空港に負けない国際競争力を身につけ、完全24時間空港という関空の強みを生かし、国際貨物ハブ空港としてパネルベイをはじめとする関西・西日本、さらにはアジアの旺盛な物流に対応していきたいと思っています。

また、関空は、お客さまが来られて「楽しい」「ぜひ、もう一度来よう」と思っただけのような利便性の高い、「おもてなしの心」がある場所でありたいと思います。現在、旅客ターミナルビルの出国審査場を出たエリアで開港以来初となる大規模工事を実施しており、来年春には国際拠点空港にふさわしい空間として生まれ変わります。

これからも、お客さまのご期待にこたえるために、便利で快適な空港をめざしてまいりますので、変わらぬご理解・ご支援をたまわりますよう、よろしくお願いいたします。

談